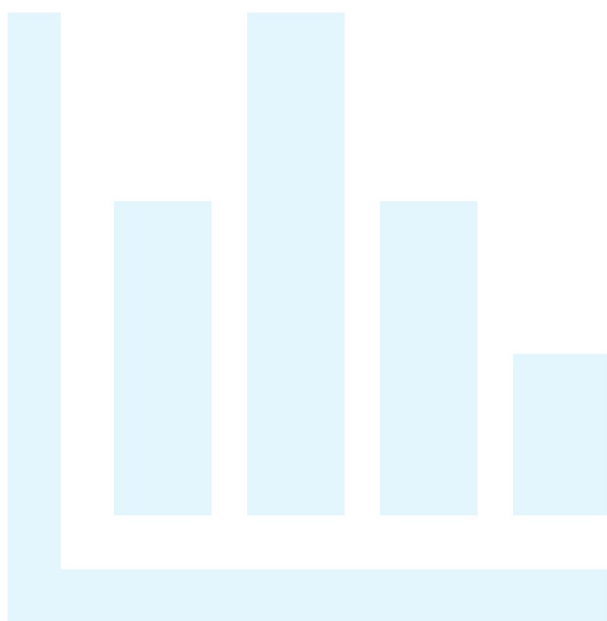


# 豊田市美里地区 高齢者のくらしに関する調査

## 調査結果報告書



令和8年3月



## - 目次 -

### I. 調査概要

調査の目的 .....	1
調査概要 .....	1

### II. 調査結果

1. アンケート調査（一部を抜粋） .....	2
2. ヒアリング .....	5
3. 意見交換会 .....	6

### III. まとめ

1. 人とのつながり .....	8
2. 健康 .....	9
3. 地域参加について .....	10
4. 安心安全について（災害、防犯、交通安全） .....	11
5. 日常生活での移動 .....	12
6. その他 .....	13

# I. 調査概要

## 調査の目的

本調査は、豊田市美里地区の高齢者福祉に関する課題解決を目的とした事業策定に資するため、美里地区の高齢者が抱えている地域特有の課題を把握することを目的としています。

## 調査概要

次の3つの調査（アンケート調査、ヒアリング、意見交換会）を実施しました。

### ● アンケート調査

調査対象者	豊田市美里地区在住の65歳以上の方を無作為抽出
調査期間	令和7年9月1日～令和7年9月22日
調査方法	郵送配布、回収は郵送方式及びWEB回答方式
調査票配布数	1,350
有効回収数	1,131（内訳 郵送回収：1,033、WEB回収：98）
有効回収率	83.8%

### ● ヒアリング

調査対象団体	豊田市美里地区の高齢者に関わる活動団体	実施回数	5回
調査期間	令和7年11月25日～令和7年12月12日		
実施方法	団体ヒアリング		
ヒアリング内容	① 「あなたは、日々の生活の中で「困っているな」と感じることはありますか」という設問に対し、「いいえ」が最も多い回答でした（55.4%）。この結果について、日頃の活動を通じて感じることや、気づきなど。 ② 「これから先、あなたが地域の活動や集まりでやってみたいことはありますか」という設問に対し、「特にやってみたいことはない」が最も多い回答でした（36.3%）。この結果について、日頃の活動を通じて感じることや、気づきなど。 ③ 地域で活動されている立場から、美里地区の高齢者が抱える課題や、暮らしやすくなるために必要だと感じることなど、ご意見があれば自由に。		

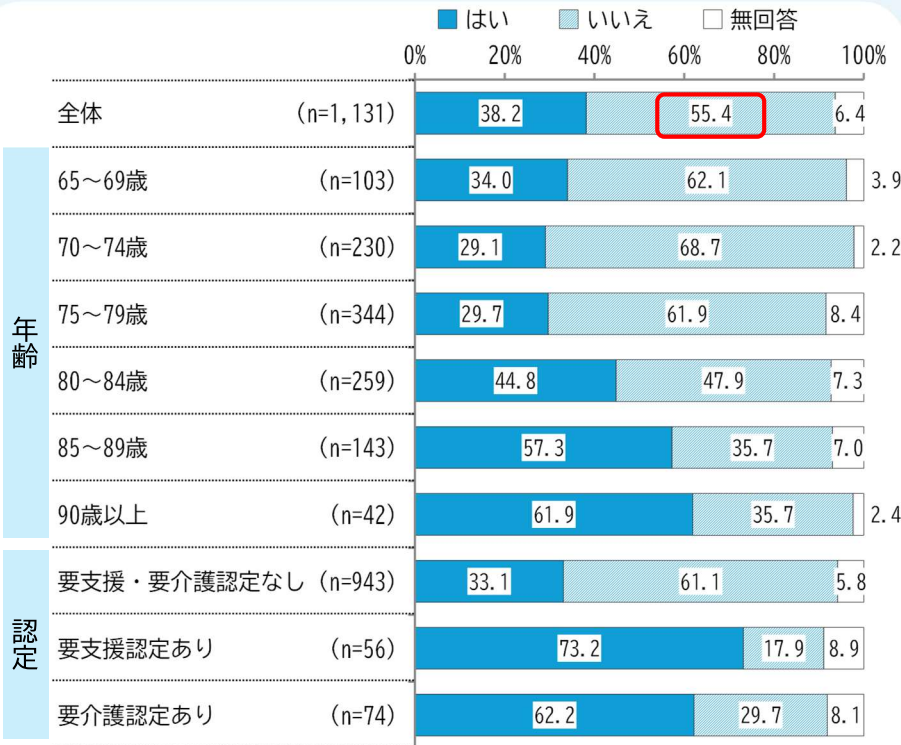
### ● 意見交換会

調査対象団体	豊田市美里地区在住の方	実施回数	1回
開催日	令和8年1月18日		
実施方法	ワークショップ形式（5グループ）		
プログラム	① 地域の課題を考えよう！ ② 課題の解決策を考えよう！		

## II. 調査結果

### 1. アンケート調査（一部を抜粋）

問7 あなたは、日々の生活の中で「困っているな」と感じることはありますか。



全体では、「いいえ」が55.4%、「はい」が38.2%となっています。

年齢別でみると、70～74歳では「いいえ」が68.7%で高くなっており、85歳以上では「はい」が約6割で高くなっています。

要支援・要介護認定でみると、「要支援・要介護認定なし」では「いいえ」が61.1%で高くなっています。「要支援認定あり」では「はい」が73.2%、「要介護認定あり」が62.2%で高くなっています。

#### ● アンケート結果から決めたヒアリングのテーマ①の目的

問7 「あなたは、日々の生活の中で「困っているな」と感じることはありますか」

➔ 「いいえ」（55.4%）が最も多い結果となった。

問22 「日々の暮らしの中で、美里地区について何か思っていることはありますか（自由記述）」

➔ 「地域活動について」「公共交通機関の充実について」「高齢者の見守り活動に関すること」などの意見や要望が多くあった。

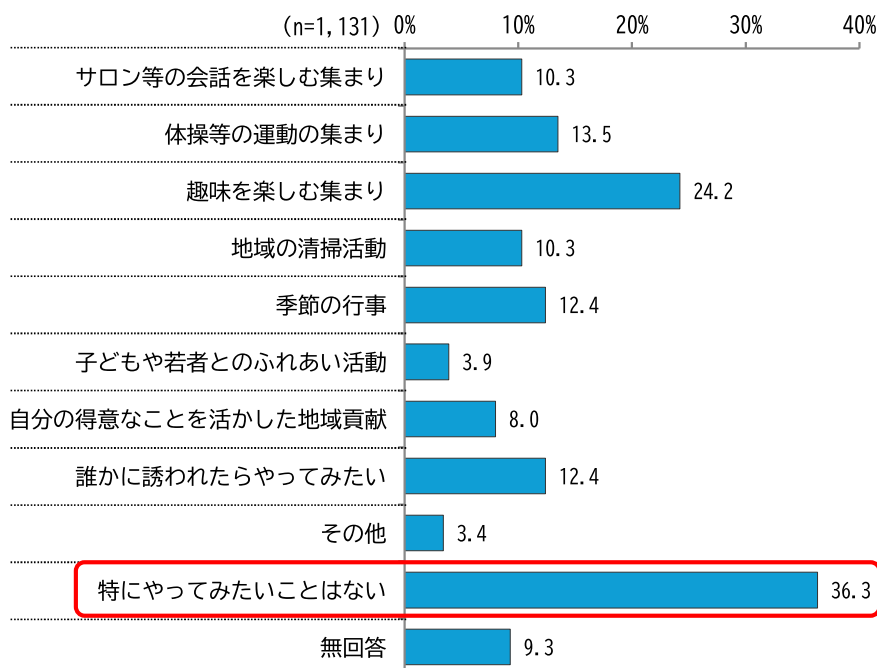
- ✓ アンケートでは、「いいえ」が最も多くなっているが、自由記述の回答では多くの意見や要望があった。アンケート結果では把握できない困りごとを把握するため、次のヒアリングテーマ①を設定した。

#### ヒアリングテーマ①

「あなたは、日々の生活の中で「困っているな」と感じることはありますか」という設問に対し、「いいえ」が最も多い回答でした（55.4%）。この結果について、日頃の活動を通じて感じることや、気づきなど。



## 問9 これから先、あなたが地域の活動や集まりでやってみたいことはありますか。



「特にやってみたいことはない」が36.3%で最も高く、次いで「趣味を楽しむ集まり」が24.2%、「体操等の運動の集まり」が13.5%となっています。

### ● アンケート結果から決めたヒアリングのテーマ②の目的

問9 「これから先、あなたが地域の活動や集まりでやってみたいことはありますか」

➔ 「特にやってみたいことはない」（36.3%）が最も多い結果となった。

問21 「地域のために、あなたが何かやってみたいと思うことはありますか（自由記述）」

➔ 「地域のために何かやってみたいと思っている」という意見が多くあった。

✓ アンケートでは、「特にやってみたいことはない」が最も多くなっているが、自由記述の回答では前向きな意見が多くあった。アンケート結果では把握できない意見を把握するため、次のヒアリングテーマ②を設定した。

### ヒアリングテーマ②

「これから先、あなたが地域の活動や集まりでやってみたいことはありますか」という設問に対し、「特にやってみたいことはない」が最も多い回答でした（36.3%）。この結果について、日頃の活動を通じて感じることや、気づきなど。

## 2. ヒアリング

以下の日程でヒアリングを開催しました。

日時	団体の種類
11月25日(火) 10時~11時	高齢者クラブ
11月27日(水) 10時~11時	ふれあいサロン、ボランティアグループ
12月3日(水) 14時~15時	自主グループ
12月10日(水) 16時~17時	民生委員
12月12日(金) 16時~17時	自主グループ、ふれあいサロン

### ● ヒアリングまとめ

#### ヒアリングテーマ①

「あなたは、日々の生活の中で「困っているな」と感じることはありますか」という設問に対し、「いいえ」が最も多い回答でした(55.4%)。この結果について、日頃の活動を通じて感じることや、気づきなど。

- ➔ 地域の一人暮らし高齢者についての意見や、移動手段についての意見が多くあった。
- ➔ 支援が必要な高齢者について、訪問や外出の拒否、誰(どこ)に相談したらよいかわからない方がいるという意見もあった。
  - ・ 「困っている」と感じるがあっても支援が必要な困り事としてとらえておらず、アンケート調査では「困っていることはない」と回答した方が多かった可能性がある。

#### ヒアリングテーマ②

「これから先、あなたが地域の活動や集まりでやってみたいことはありますか」という設問に対し、「特にやってみたいことはない」が最も多い回答でした(36.3%)。この結果について、日頃の活動を通じて感じることや、気づきなど。

- ➔ 活動内容のマンネリ化、参加者の固定化や男女比・年齢層の偏りがあるという意見が多くあった。
  - ・ ヒアリング対象者は、活動に積極的な方が多く、新たな参加者獲得のための活動案や実績が共有された。

### 3. 意見交換会

- 概要

高齢者になっても安心して暮らし続けられる地域づくりのため、生活での困りごとなどの意見交換を行いました。5グループに分かれ、各グループ、ピンク色の付箋に課題、黄色の付箋に解決策を記入し、カテゴリーごとにボードにまとめました。

- グループワーク参加者 約 30 名

- タイムスケジュール

時間	プログラム	内容
14:00～	開会のあいさつ (あいさつ・趣旨説明)	事務局より開会あいさつ
14:05～	アンケート調査結果の報告	アンケート調査結果から、主な結果を紹介
14:20～	本日の進め方	プログラムの進め方を説明
14:25～	自己紹介	グループごとに自己紹介
14:30～	地域の生活課題(困りごと)を出そう	生活課題(困りごと)を付箋に書き出し発表し、ボードにまとめる
14:55～	課題の解決策を考えよう	生活課題の解決策を書き出し発表し、ボードにまとめる
15:25～	休憩	各グループ、発表に備えて休憩
15:30～	発表	各グループ5分以内で、話し合った内容を発表
15:55～	閉会あいさつ	事務局より閉会のあいさつ

グループワーク

【各グループのボードの様子】



● グループワークによる意見・提案の抜粋

テーマ	課題	解決策
人 際	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 同じ組に住んでいる方の顔、名前がわからない</li> <li>● 隣近所との付き合いが少ない（特に新しく入られた方）</li> <li>● 行きかう人が近くの人かどうか分からない</li> <li>● あいさつができていない</li> <li>● 孤独。友人がいないので近くも居場所へは、行きたくない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ふれあいサロンを数多く作り、だれもが集える場づくり</li> <li>● 一人一人が声かけ、あいさつ運動をするようにしていく</li> <li>● 声を出す（思っていること伝える）</li> <li>● 区民館の有効活用で気軽に行ける場所作り</li> </ul>
健	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者の元気年齢を保つには</li> <li>● 買い物（高齢者が大変そう）</li> <li>● 足腰が弱くウォーキングも難しい</li> <li>● 思いがけない出来ないことが出でくる。忘れること。出来たことが出来ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 元気なうちは助ける、元気がなくなれば助けてもらうしくみづくり</li> <li>● スーパーからショッピングカーを出してもらう</li> <li>● 元気アップ教室の増強</li> </ul>
継 続 の 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者の集まりの運営スタッフの高齢化。後継者がいない。</li> <li>● 65～75歳の方の参加が少ない</li> <li>● 老人会に入りにくい。40～60代の会がない</li> <li>● 行事参加者の片寄り</li> <li>● 地域の活動で何があるか知らない（高齢者の）</li> <li>● なにもかもスマホで教えてくれる家族がないと困る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 交流の場。若者と交流できるテーマをつくり、参加してもらう</li> <li>● 地域参加しやすくするには空家を市が借りて利用できるようにしてほしい</li> <li>● 団体リーダーの育成のしくみ</li> <li>● スマホなど SNS で友達をつくるためまずスマホ教室を開催</li> </ul>
空 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災対策（自治区を含め意識が低く、もし大きな地震が来たら困る）</li> <li>● 災害の時の連絡方法等まだ分からない事が多い</li> <li>● 住んでいる近くの道路（生活道路、通学路）を車が非常に速く走行していて危険。抜け道。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 美里地区で防災訓練日を設ける（地域全域）</li> <li>● 防災教室の必然性</li> <li>● 歩道の改修（車道面上げてスロープ軽減など）</li> </ul>
電 の 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 免許証返納後の交通手段について（地域バス等）。医療機関を巡るバスがあったら（スーパー等にも）</li> <li>● 移動手段がない（病院等へ行く時）</li> <li>● 近くの交通手段がない。タクシーは高い</li> <li>● おいでんバスの利用がしにくい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高齢者専用のタクシーを市が援助してくれる（補助）</li> <li>● 団体用バスサービスなど</li> <li>● おいでんバスの無料化 or100円にして増便にする</li> </ul>
の 他	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 困った時に誰に（どこに）相談したら良いか分からないのでは？</li> <li>● 75歳までは困りごとは少ない。80歳以上では困りごとが増える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 困った時のダイヤルを定める。</li> <li>● お助けダイヤルの周知</li> </ul>

## III. まとめ

### 1. 人とのつながり

#### ● 課題

- ・ 日々の生活の中で「困っていること」として、「体が思うように動かない」に次いで「人と話す機会が少ない」が27.3%と多い。（アンケート）
- ・ 主に一人暮らしの高齢者の課題として孤独・孤立の意見が多い。背景には、話す機会・場所がないことに加え、相談しない、訪問を拒否するなどの外部接触の拒絶もある、という意見があげられた。（ヒアリング）
- ・ 近所付き合いの減少、一人暮らしの増加など、コミュニティの希薄化による社会的孤立が課題としてあげられた。（ヒアリング・意見交換会）

#### ● 解決策

- ・ 気軽に集まれる場所が必要だという意見が多い。具体的には、集会所、交流館の活用で、使用料がかからず、身近な場所であることが求められた。（ヒアリング）
- ・ 交流館や区民会館を活用してふれあいサロンを増やし、だれもが集える交流・娯楽の場、居場所づくりを求める意見が多い。（意見交換会）
- ・ まずはあいさつをすることで、近所の方と知り合うきっかけをつくるという意見があった。（意見交換会）
- ・ 民生委員による定期的な見回りや連絡など、見守りの充実を求める意見があった。（ヒアリング）
- ・ 一人でも参加しやすい居場所（レストラン、喫茶店、スナック）づくりを求める意見もあった。（意見交換会）
- ・ 孤独・孤立の対策として、孤独になる前から近距離・身近な地域での継続的な活動が重要という意見もあった。（ヒアリング）

#### ● 「人とのつながり」意見まとめ

- ➡ 話す機会・場所が少ない、一人暮らし高齢者の社会的孤立が課題として多かった。解決策としては、まずは顔の見える関係性の構築に向けた、近隣住民との日常的なあいさつの励行、気軽に集まれる場所での交流や居場所づくり、見守りの充実が提案された。

## 2. 健康

### ● 課題

- ・ 日々の生活の中で「困っていること」として、「体が思うように動かない」の回答が 28.9%と最も多い。（アンケート）
- ・ ふだん体を動かすことを「特にやっていない」と回答された方は、その理由として「足腰など体が痛い」「病気やケガがある」「体力に自信がない」の回答が多く、身体的理由が多い。（アンケート）
- ・ 地域で行われている活動や集まりで参加または関わっているものは「特にない」と回答された方は、その理由として「体力に自信がない」「足腰など体が痛い」「病気やケガがある」の回答が多く、身体的理由が多い。（アンケート）
- ・ 一週間のうち「あまり外出していない」と回答された理由として、「足腰などの体が痛い」「病気やケガがある」「出かけるとすぐ疲れてしまう」の回答が多く、身体的理由が多い。（アンケート）
- ・ 80歳代での生活機能や認知機能の低下による日常生活のしづらさについての意見があり、外出や買い物、ウォーキングも困難という意見があった。（意見交換会）

### ● 解決策

- ・ ふだん体を動かすこととして、「散歩・ウォーキング」「園芸・農作業」「家でストレッチ」の回答の割合が高く、一人で始めやすいことを実践している。（アンケート）
- ・ これから先運動する機会を増やすとしたら、やってみたいこととしては、「毎日歩く習慣をつける」「家で運動する」の回答が多く、一人で始めやすいことの回答が多い。（アンケート）
- ・ 運動不足解消、健康づくりのための取り組みや、安否確認も兼ねた在宅医療・在宅看護の訪問サービスを求める意見があった。（ヒアリング）
- ・ 健康維持のために、元気アップ教室の増強という意見があった。（意見交換会）
- ・ 販売カー、ショッピングカーを求める意見があった。（意見交換会）

### ● 「健康」意見まとめ

- ➔ 困っていることや運動しない理由、地域活動へ参加しない理由、外出しない理由として、身体面での不調を訴える意見が多かった。様々な課題は「健康」につながっている、という意見もあった。身体面での不調は、外出や買い物といった日常生活をも困難にする。解決策としては、在宅医療・在宅看護の訪問サービスの推進や元気アップ教室の増強が提案された。また、アンケートでは、一人で始めやすい体を動かす取り組みを実践されている方や今後やってみたい方が多く、関心が高い可能性がある。

### 3. 地域参加について

#### ● 課題

- ・ 地域で行われている活動や集まりで参加または関わっているものとして、「特にない」が32.6%で「環境美化活動」に次いで回答が多い。（アンケート）
- ・ 活動内容のマンネリ化、参加者の固定化や男女比・年齢層の偏りがあるという意見が多い。（ヒアリング）
- ・ 組長や役員などリーダーになる人材の不足、65～75歳の参加者が少なく高齢化など、参加者の固定化の意見が多い。（意見交換会）
- ・ 役員や発案者、幹事の負担が大きく、民生委員を含め担い手が不足している。（ヒアリング）
- ・ 自主活動グループ等、どのような活動があるのか分からないという意見があった。（ヒアリング・意見交換会）

#### ● 解決策

- ・ 活動へ参加するきっかけには、口利き、友人・知人の誘いが効果的という意見が多く、見学会や無料開放も効果的との意見があった。また、自主活動グループが多くあるものの認知不足のため、周知の強化を求める意見もあった。（ヒアリング）
- ・ 活動内容によっては、60歳代や子ども、保護者の参加があるという事例が共有された。（ヒアリング）
- ・ おしゃべりだけの集まりや出席確認をなくすなど気軽な参加を促す工夫がある一方で、家にこもりがちな男性は、お助け隊のように仕事がある方が参加する人もいるという意見があった。（ヒアリング）
- ・ 役員や幹事の仕事を簡略化するなど、負担を軽減することで、これまで地域活動に参加していなかった人の参加につながるという意見があった。（ヒアリング）
- ・ 地区ごとのお助け隊の立ち上げや民生委員の見守り強化など、高齢者支援の活動の充実を求める意見が多い。（ヒアリング）
- ・ わくわく事業は「地域への公益性」を1番にしているが、健康づくり活動も含まれるよう基準の見直しを求める意見もあった。（ヒアリング）
- ・ デジタル活用を通じたコミュニティ形成や、必要な情報を取得できる環境づくりのため、スマホ教室を開催する案があった。（意見交換会）
- ・ 参加しやすい地域活動の場として空き家を有効活用できるよう、市へ求める意見があった。（意見交換会）

#### ● 「地域参加について」意見まとめ

- ➔ 活動の形骸化や参加者層の固定化、性別・年代の偏りが課題としてあげられた。解決策としては、知人・友人による勧誘、ターゲット層のニーズに合った活動の実施、役員の負担軽減による持続可能な運営などが提案された。

## 4. 安心安全について（災害、防犯、交通安全）

### ● 課題

- ・ 災害による被害などに備えて普段準備していることとして、「懐中電灯やラジオなどの防災グッズをそろえている」「非常食や飲み水を用意している」のように、物品の備えをされている方が多い一方で、「特に準備していない」と回答された方は、16.5%となっている。（アンケート）
- ・ 防災、交通安全について心配に思っていることとして、「特に心配していない」の回答が約25%となっている。（アンケート）
- ・ 高齢者世帯の安否や要介護2以下の情報が公開されず、災害時や何らかのトラブル発生時に助けることが難しい。（ヒアリング）
- ・ 防災意識が低いという意見が多くあった。（意見交換会）
- ・ 信号が見えにくい、道路が危険であるといった、交通安全上の懸念事項が複数あげられた。（意見交換会）

### ● 解決策

- ・ 避難行動要支援者名簿の定期的な更新と、民生委員・自治区間の連携による情報共有体制の構築が必要であり、自治区主体の防災体制を確立し、年1回以上の防災訓練を通じて地域防災力の向上を図る必要がある、という意見があった。（ヒアリング）
- ・ 防災訓練の定期開催や防災委員会の設置、防災教室による啓発に加え、自治区単位での自主防災組織の整備やネットワークの構築など、重層的な対策が提案された。（意見交換会）

### ● 「安心安全について」意見まとめ

- ➔ ヒアリング、意見交換会では、防災意識の低さ、要支援者情報の共有不足が指摘された。アンケートでは、防犯、交通安全に対し約25%が「特に心配していない」と回答しており、意識の低下が懸念される。解決策としては、避難行動要支援者名簿の定期的な更新、民生委員と自治区間の情報共有体制の確立、および実践的な防災訓練の実施が提案された。

## 5. 日常生活での移動

### ● 課題

- ・ これから先、外出や移動について一番心配に思っていることとして、「運転ができなくなったときの移動手段」の回答が 43.7%と最も多い。（アンケート）
- ・ 車の免許を返納した方や、もうすぐ返納しようと考えている方は、これから先の外出や移動として、「まだ車の免許を返納する予定はない」「家族や友人に車で送ってもらう」に次いで「バスや電車などの公共交通機関を利用する」となっている。（アンケート）
- ・ バスの利便性が低く、免許返納後の移動が不便という意見が多い。（ヒアリング）
- ・ 免許返納後における移動手段の確保が大きな課題となっている。（意見交換会）

### ● 解決策

- ・ バスの無料化や送迎サービスなど、運転免許自主返納者に対する移動支援を求める意見があった。（ヒアリング）
- ・ タクシー券、高齢者専用タクシー、移動ボランティア、団体用バスサービス、自治区管理の車、バスの無償化・増便等、多くの提案があった。（意見交換会）

### ● 「日常生活での移動」意見まとめ

- ➡ 公共交通機関や免許返納後の移動手段確保についての意見が多くあった。解決策としては、運転免許自主返納者を対象とした、バス運賃の無償化やタクシー券の交付など、公的支援の拡充を求める要望が多くあった。

## 6. その他

---

### ● 課題

- ・ 困りごとの相談先として、市の相談窓口や民生委員、お助け隊が認知されていないという意見があった。(ヒアリング)
- ・ 困ったときに誰(どこ)に相談したらいいかわからない人がいるのではないか、という意見があった。(意見交換会)

### ● 解決策

- ・ 高齢者の困りごと専用相談窓口・お助けダイヤルを設置し、そこから市や自治区、お助け隊の支援へ繋げる体制を整え、周知を徹底して利用拡大させるという意見があった。(ヒアリング・意見交換会)

### ● 「その他」意見まとめ

- ➡ 相談先が分からない人が多いのではないか、という意見があった。解決策としては、高齢者専用の困りごと相談窓口・お助けダイヤルを設置し、認知してもらうとともに利用方法を周知徹底し、利用の定着と拡大を図っていくことが提案された。

豊田市美里地区  
高齢者のくらしに関する調査  
調査結果報告書

発行年月：令和8年3月

編集・発行：豊田市役所 高橋支所 地域振興担当

住所：〒471-0014

豊田市東山町2丁目1-1

TEL：0565-80-0077

FAX：0565-80-0092